

縁をつむぐ国際協力

特定非営利活動法人 JIPPO (十方)

## 巻頭言

## 人と人との間を豊かにする実践

JIPPO専務理事 中村尚司

釈尊の教えの核心は、現代語的に表現すれば「関係が存在に先立つ」といえます。ジャータカ物語のようなエピソード、唯識の論理的な展開、各教団における戒律の扱い方等を別にすれば、親鸞聖人をはじめ多くの宗派や教団に、この核心部分は継承されています。JIPPOの重点プロジェクトも、この教義の核心を基礎にすべきだと思えます。「人と人との間を豊かにする実践」というスローガンは、関係主義の立場から「人間」を「人の間」と読みかえる試みから出発しています。

存在論的な理論を追究すれば、人と人との間だけではなく、人と生物、人と事物、生物相互の関係、事物相互の関係も存在に先立ちます。しかし、なによりもまず人と人との関係から取り組むべきでしょう。この立場に立てば、念仏もまた個々人の営みではなく、仲間作りや、共同的な活動の一環であろう、と思えます。

しかしながら、現代日本社会では、圧倒的に個人主義の力が強く、東日本大震災の被災地においても、「心のケア」でさえ、個人主義的に行われがちです。個人の営為ではなく、もっともっとネットワークづくりに力を入れるべきだと思えます。

元来「人間」の語源は、マヌーシャ(インド古典語)の漢語訳であるといわれています。中国では、「世の中、人の世」の意に用いら

れています。現代日本語では「人」の意が主流になっています。サンスクリット語では、マヌーシャが「人」の意にも使われるので、語義が里帰りしたとも言えましょう。長い道程を経て、現代日本語の「人間」が、インド諸語の「人」と中国語の「世の中」を統合する表現力を獲得しているのです。今こそ「人と人との間の充足」に向かう運動を積極的に展開すべきでしょう。

具体的な実践活動は、さまざまな機会に議論を積み重ねるべきでしょうが、例示すれば次のようなものが考えられます。

- 1、東日本大震災の復興事業を分担する。
- 2、野宿者(ホームレス)などの社会的弱者と付き合う。
- 3、来日する外国人労働者やその子どもたちの日本語学習を手伝う。
- 4、旧植民地出身者とその社会組織と交流する。
- 5、出自、学歴、職業、性別などによる差別解消運動に参加する。

そんなことを考えながら、5月30日に横浜で開催された「国際エンゲージド仏教ネットワーク」の運営委員会に参加しました。本年11月に、世界各地のエンゲージド仏教団体の代表が、東電福島第一原子力発電所の被災地を訪問したい、という希望がありそのプログラムを相談しました。

委員会の休憩時間に、城陽市

に設置したホスピス(あそかビハーラクリニック)の話をしていると、浄土宗心光院(東京都港区)の住職である戸松義晴師が声をかけてくださった。「たいへん素晴らしい事業です。経済産業省商務情報政策局の<ライフエンディング・ステージ>研究会で<あそかビハーラクリニック>を紹介し、4月末に公表された経産省の報告書に載せてもらいました。浄土宗から見ると他宗派の事業ですが、良いものは広く知ってもらいたいので、宗派の壁を越えて宣伝しています」と言われた。

ハーバード大学の留学経験を活かして、日頃から堪能な英語で仏教の社会貢献を説いている戸松師が、浄土真宗本願寺派の事業に深い関心を寄せてくださっていることに感銘しました。人と人との間ばかりでなく、宗派と宗派の間もその壁を低くし、交流を深めることが大切であることを痛感した事例です。



毎年1月に東本願寺前で行っている野宿者支援の餅つき大会

# 2012年度 JIPPO事業計画

JIPPOは法人設立4年目を迎えました。

昨年度は東日本大震災の復興支援に奔走した1年でしたが、今年度は被災地の支援を続けながら、本来の目的である国際協力活動を積極的に推進していきます。

特にJIPPOが設立以来支援してきたスリランカでは、戦災孤児の自立支援と、紅茶栽培における自営農民支援の二つのプロジェクトを始めるため、現地の人々との話し合いを始めました。また、新たな支援の場として熱心な仏教国であるカンボジアにおいて、ポル・ポト政権により破壊されてしまった農村の大衆芸能を復興し、若者の手による地域の活性化を図るプロジェクトを立ち上げる計画です。

JIPPOはこれらの事業を広く会員や組織の皆さんの支援を募り、連携しながら、現地と日本人と人とながらプロジェクトとして推進していきたいと考えています。

## 成長した戦災孤児の 自立を —スリランカ—

1983年以来スリランカ北部州ヴァヴニヤ県は、タミル民族の独立を目指す「タミル・イーラム解放のトラ(LTTE)」軍とシンハラ人中心の政府軍が軍事衝突する紛争地でした。2009年に戦況が激変し、政府軍側が軍事的に反政府のLTTE軍を制圧し、現在は平和が戻りつつあります。しかし難民を多く出したヴァヴニヤ県における深刻な社会問題は、両親を亡くした戦災孤児の存在です。

セト・セバナ孤児院は、ヴァヴニヤ県アタンバガスカダのスタルマラーマヤ寺院の敷地に併設さ

れた戦災孤児院で、シンハラ人住職のアタンバガスカダ・カリーナティッサ師が1995年に開設しました。親を戦闘で失い、親がいても子どもを養育できる状況でない場合、その子の生存を確保することが孤児院活動の出発点でした。

小乗仏教と呼ばれる南伝仏教は、日本では社会問題に関心が無いと誤解されています。しかし、500名を超える孤児の世話をした同師の活動は、社会貢献に取り組む小乗仏教の具体例です。シンハラ人僧侶がタミル人孤児を引き取って養育するという事業は、長年の民族不和に苦しんできたスリランカにとって、民族融和を象徴する大きな意義があります。

2012年2月に現地を訪れたとき、孤児院では孤児は67人が生活していました。以前は女児もいましたが、収容能力を超えるため、現在は別の施設に委ねています。子どもたちは、僧侶とその実母ですべて世話してきました。施設は寺への寄進や寄付で運営しているほか、寺院の水田で採れる米を売って生活費に充てています。

2010年12月にスリランカ中部以北で起こった豪雨による洪水は、孤児院にも大きな被害を及ぼしました。

孤児院の支援事業を考えて

いたJIPPOは、今年2月のスタディツアーで孤児院を訪問。子どもたちと歌や手遊びで交流し、崩れた農地を視察しました。そこで緊急の支援として、JIPPOがスリランカ洪水災害救援のために募った募金174,333円を孤児院の農地復旧のために役立てることにしました。

現在、カリーナティッサ師が最も心配するのは成人した孤児の自立です。親がいて高等教育を受けたシンハラ人青年でも、雇用問題は深刻なのでタミル人孤児の就職はなおさら困難です。「お寺で所有する4haの農地を活用して子どもたちを農業者として育てたい」というのが、住職の計画です。JIPPOはこの意向に賛同し、地域全体の農業振興も視野に入れて支援していきたいと考えています。

## 自営農民による紅茶の 有機栽培 —スリランカ—

“セイロン紅茶”で名をはせたスリランカの紅茶栽培の歴史は意外と浅く、ほんの140年ほどにすぎません。イギリスが植民地政策の一つとして19世紀半ばにコーヒー栽培から転換させ、後のゴム栽培とともに大規模に行われてき



成長した孤児たちの行く末が気がかりなカリーナティッサ師

ました。独立後、プランテーションは国営から半国営へ移り、国から農園を借り受けた経営者がタミル人の労働者を園内に住まわせて紅茶を栽培し、農園ごとの工場加工して出荷するのが一般的な生産システムになっています。

JIPPOは設立以来スリランカ中部の高地にあるグリーンフィールド農園をフェアトレードによって支援してきました。労働者の生活向上のための支援として、昼間子どもを預ける幼稚園の教員研修も行っています。

しかし、プランテーションの支援は経営者が中間に入ることで直接労働者の生活向上に働きかけにくい問題点があります。またタミル人農業者が単なる労働者ではなく自立してその社会的地位を確立することはスリランカ社会の課題でもあります。

そこで、JIPPOは、これまで通りプランテーションの労働者を支援する一方、自営農民の労働組合を組織し、高品質の茶葉を生産するとともにその品質管理システムとマーケットを確立するための支援事業に着手することにしました。まず日本にお茶栽培の研修生を招へいする受入れ先を探しています。日本のお茶生産者の技術や経験を生かした協力がこの支援には欠かせません。



農民とこれからの紅茶栽培について意見を交わす中村専務理事

## 大衆芸能復活で 若者に活気を —カンボジア—

カンボジアでは1975年から1979年における通称ポル・ポト時代において、すべての文化・芸術活動が否定、禁止された辛い歴史があります。100万以上とも言われる虐殺された人びとの中には、カンボジア文化を担う多くの芸術家たちが存在しました。著名な歌手はすべて殺害され、農村における芸能活動も禁止されたのです。

内戦終結後、国は復興に向かい、わずかな生き残りの芸術家たちの下、宮廷舞踊、宮廷音楽といったカンボジア芸能も復興を遂げました。しかし人びとの暮らしに根付いた大衆芸能の復興は、農村の人びとに託されたまま、国家や国際機関等によって復興支援が行われたことはほぼ皆無です。

農村には唄や踊り、演劇、音楽の演奏が、日々の暮らしの中にあります。現在でも、結婚式には踊り子や歌い手、楽器の奏者が活躍し、寺の行事や正月には音楽や舞が祝いの一部を担います。しかし、内戦以前に比べるとその数は減少し、都市への人口流出や、テレビやインターネット、DVD等の普及により伝統文化の衰退傾向も否めません。

一方、カンボジアの潜在失業率は40%近くに上り、高校や大学を卒業しても職のない若者たちが農村には多く存在しま

す。若者たちの生活は安定せず、昼間から酒を飲み、村の祭りで若者たちが集ると、若者同士の暴力事件が起こる。農村の人びとは「かつて若者たちがこんなに荒れたことはなかった」と口を揃えます。このような状況は、複数の地域で報告されており、カンボジア全土に共通した背景があると言えるでしょう。失業率の高さに加え、



シェムリアップの農村で仏教のお祭りに演じられる踊り

スポーツや文化活動など若者たちのエネルギーを発散させる機会が現在のカンボジア農村に存在しないことがその一因と考えられるのです。

JIPPOは、カンボジア農村に現在も残る大衆芸能の保全・発展を支援することを考えました。新たな担い手としての若者たちを育成することで大衆芸能の発展を目指し、彼(女)たちの心身の健康に寄与することを目的とします。また大衆芸能が観光資源となり、経済の振興に寄与することも期待しています。

方法としてまずは、カンボジアの中でも最も芸能文化が盛んなシェムリアップ州で大衆芸能の大会を実施します。徐々に参加チームを増やし、首都プノンペンでの全国大会開催が目標です。現地の若者が自分たちで盛り上げていけるプロジェクトをめざしています。

2011年、JIPPOは東日本大震災の復興支援として、南相馬の子どもたちを野外活動に招いたり、福島の観光物産を年間通じて販売したりすることで原発事故の被災地に思いを寄せてきました。

JIPPOの活動資金、救援募金にご協力いただき、ありがとうございました。

現地を訪れるたび、まだまだ復興までの道のりは遠いと感じます。これからも被災地のことを忘れず、また自分たちにも起こりうることを心得て活動していきますので今後ともご支援よろしく願いいたします。



1年間続けた福島の物産販売。750回大遠忌の「ご縁まちマルシェ」のほか、寺院や会合でも販売した

## 写真で見る JIPPO2011年度活動報告



南相馬の子どもたちの野外活動。県外3カ所に招いて、自然を満喫した（7/25～8/25、のべ98人が参加）



8月5日に開いた「被爆ピ  
アノコンサート」では原爆  
と原発を考えた

### 寄付者一覧 (2011年度 敬称略)

ご協力に心から感謝いたします

#### 【団体】

安芸教区広陵東組光徳寺	
ダーナ募金	広島県
岐阜岐稲組 仏教壮年会	岐阜県
岐阜教区仏教壮年連盟	岐阜県
浄土真宗本願寺派	京都府
東林寺	北海道
龍谷大学経済学部	
伊達ゼミナール	京都府

#### 【個人】

大久保 豪	佐賀県
大谷 光真	京都府
小笠原義宣	島根県
岡 宏	山口県
後藤 壽邦	広島県
丹治 大一	兵庫県
林 敬子	富山県
三井 圭子	兵庫県
三谷 艶子	広島県

特定非営利活動法人JIPPO

### 東日本大震災復興支援活動 会計報告

2011年3月13日から 2012年3月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 収入</b>		
1. 寄付金		
災害救援募金	290,407	
指定寄付	1,308,321	1,598,728
2. 助成金等		
仏教NGOネットワーク	500,000	
中央共同募金会	2,870,000	
京都地域創造基金	176,000	
仏教伝道協会	50,000	3,596,000
3. 事業収入		
福島物産販売	7,385,222	
子どもたちの野外活動	27,000	7,412,222
4. その他収入		
自己資金	257,798	257,798
<b>収入合計</b>		<b>12,864,748</b>
<b>II 支出</b>		
福島物産商品仕入高	6,566,402	
旅費交通費	735,658	
現地活動費	843,532	
人件費	2,353,599	
通信運搬費	22,040	
水道光熱費	703,641	
消耗品費	107,802	
車両費	1,318,700	
調査研究活動費	36,294	
保険料	155,415	
諸費	21,665	12,864,748
<b>支出合計</b>		<b>12,864,748</b>
<b>収支差額</b>		<b>0</b>



大谷本廟の朝市でのバザー。売上は御正忌報恩講の際のバザー売上と合せ、タイの洪水支援に



JR京都駅で開かれた「国際協力ステーション」にブースを出展（8月6日）



タイ・スタディツアー（8/23～8/30）は、タイとミャンマー、ラオスの国境を訪れ、山岳少数民族の暮らしに触れた



スリランカ・スタディツアー（2/2～2/9）で登ったシーギリヤロック。この後スコールの雨が・・・

## 2011年タイ洪水 被災地支援

### アユタヤの小学校再建に寄託

JIPPOでは2012年1月の御正忌報恩講にあわせ行ったバザーの売上を、昨年10月の大洪水で甚大な被害を受けたタイ・アユタヤ県にある小学校「プラチャーコーンランサリット学校」の再建に寄託しました。

同校は、アユタヤの農村にある仏教系の学校で、幼稚園年少から小学6年生まで101名の子どもたちが仏教の教えを実践しながら学業に励んでいます。

学校は1995年より毎年のように水害を受けていて、特に1995年、2006年、2007年、2010年、2011年は被害が大きく、校舎や活動に用いる道具が大変な損害を受けました。生徒達は学校に来ることができず、毎年20～30日間は

洪水のために休まざるを得ない状態だったそうです。修理のための費用は毎年30～40万

パーツに上り、こうした状況が繰り返される事が、教師や生徒への大きな負担となっていました。そこで2012年に学校では根本的かつ持続的に問題を解決し、生徒が年間を通して学びの場を持つことができるように、皆が協力

し合って新しく校舎の建設を決めました。そしてそのための資金を得るために、住民や企業、NGO、様々な福祉団体からの寄付を募りました。校舎は2階建てで、上を教室、下を食堂と幼稚園とする予定。建設費は342万

パーツ(約950万円)の見込みです。

JIPPOは校長のソムヨット氏からこうした事情を聞き、協力依頼の要請を受けて、学校再建の費用としてバザーの売上金を送ることに決めました。バザーの売上283,993円のうち271,983円を寄託し、残りは送金手数料の一部に充てています。



洪水で教室が使えなくなったプラチャーコーンランサリット学校

## スリランカ・スタディツアー「茶園と戦災孤児院交流の旅」へ行ってきました

2月2日～9日、JIPPO春のスタディツアーを実施しました。

今回はJIPPOがフェアトレードで支援しているハプタレーで3つの幼稚園を訪問したほか、新しく戦災孤児の支援を始める北部のヴァウニヤを訪れました。

昨年3月、JIPPOが実施したハプタレーの幼稚園教員の研修に、講師としてスリランカを訪れた兵庫大学短期大学部保育科講師の三井圭子さんが、今回のツアーで再訪。新たな発見や喜びを感じた三井さんの参加報告です。

昨年の3月にハプタレー地区幼稚園教員研修会に参加させていただき、もう一度是非、スリランカへ行きたいと思っていました。

日本の四季の花々が一斉に咲いている国スリランカ、かわいい瞳の子どもたちに会えること、頭には色々な事がめぐりました。

ツアーでは初めてのメンバーの方との出会いも何の心配もなく、同じ目的を持った仲間同士であることで自然な関係ができました。スリランカ航空は、モルディブを経由して、13時間の飛行機の旅です。

独立記念日で、祝日だったにもかかわらず、3カ所の幼稚園を訪問することができました。

ハプタレー地区の風景は懐かし、あのくねくね道も約1年前に経験したのと同じでした。英語やタミル語で子どもたちが親しく話しかけてくれたり、親切にトイレを使わせていただいたり、とても優しい人々の印象を持ちました。英語で話しかけてきた女子が将来医者になる夢を語って、感激。

花々が咲き、川では洗濯をしているのどかな茶園の村の中を2キロほど歩いて到着した「ナワール幼稚園」で、保育の交流をしました。3、4歳の子どもたち22人が園舎の外側に並び出迎えてくれました。子どもたちは、行儀よく椅子に座り、緊張しています。緊張をほぐす意味で、私が用意した「ぞうくんのさんぽ」ペープサートを始めました。

「ゾウはもちろん知っている、カバは知らない」。一つずつ説明し

ながら、通訳を通してのお話にも子どもたち、きょんとした顔。簡単な繰り返しの楽しいお話なので、通訳なしで、もう一度。少し顔がゆるんできたかなと思えました。

メンバーにはプロの音楽家もいて、彼女の歌声に大人も聞き入っています。日本人みんなでトーンチャイムの「きらきら星」を演奏し、ミニコンサート会場になりました。

お礼にと、子どもたちから歌のプレゼント。恥ずかしさで声が小さいけれど、一生懸命さが伝わってきます。和やかな雰囲気になり、外に出て記念撮影しました。

入園したばかりなのにきちんと椅子にすわり、おとなしい子どもたち。一人母親を探し泣き出したのを見て、自然な子どもの姿に、むしろほっとしました。

午後は「サラスバティ幼稚園」を訪れ交流しました。幼児29人を2人の教員で担当されています。

教室は本当に狭く、4畳半位の広さに机、壁の周りに子ども用椅子が並べてあって、私達が入るといっぱいです。お天気の日には教室になるであろう園庭は生垣で囲まれ、ジャングルジム、シーソーが設置され、その周りに子どもたちの椅子が並んでいます。狭いなりに、効率よく工夫して使用されていると感じましたが、子どもたちをのびのび遊ばせてあげられるよう、これから支援が届くことを願わずにはられませんでした。

JIPPOが支援をして園舎を改築した「ハプタレー幼稚園」は、施設見学のみとなりました。

5日目は「セト・セバナ孤児院」



幼稚園での交流の様子

の訪問です。広大な農地に驚きました。子どものためにキャリアナティッサ師は、農業を教え、スリランカの農民として自立してほしいと夢を語られました。この日は4歳から13歳の子どもたちがいて、日本語にもすぐに反応し、愉快で、楽しい交流となりました。

ヴァウニヤのホテルの大音響のテレビと、早朝のお経にはびっくり。部屋のベットには派手なピンクの蚊帳が付けられていて、笑いが止まらなかつたりもしました。

世界遺産のキャンディの町、アヌラダプラの遺跡、シーギリヤロック登頂等、素晴らしいスリランカの歴史的な遺産に触れ、自然の雄大さに感激し、野生のクジャク、サルに出会い、スリランカの豊かな財産を実感しました。自然と人との共存をスリランカが世界に発信してほしいと思います。そして、観光客も多く招き入れ、農産物も輸出し、国全体が潤い、タミルの人々も潤い、心も、体も豊かになってほしいと願わずにはいられません。幼児教育の中で、私が役立つことをこれからも考えながら、また、ハプタレー地区の幼稚園へ行き、スリランカの旅をしてみたいと思いを強くしました。

仏跡巡拝とインド福祉村を訪ねる旅

参加者募集

期日：2012年8月25日（土）～9月1日（土）8日間 / 参加費：25万円

JIPPO恒例の夏のスタディツアー、今回は北インドの釈尊の聖地を巡る旅を計画し、参加者を募集しています。

釈尊生誕の地、ネパール領ルンビニをはじめ、入滅の地クシナガラ、初転法輪の地といわれるサールナートなど、釈尊の足跡をたどり原始仏教の姿に思いを馳せます。加えてクシナガラでは、日本のNGOである「インド福祉村協会」が医療の支援活動を行っている「アーナンダ病院」を訪れ、現地の医療の様子を知るとともにボランティア活動としてバザーをする計画です。

JIPPOのスタディツアーは、国際協力の現場を訪れ、日本と異なる環境・文化に触れ、国際感覚を養うとともに、その地で抱える問題点だけでなく日本の問題点にも気づき、自分のライフスタイルや行動に反映させていくきっかけになることを目的に実施しています。ぜひご参加ください。

日付	旅程・プログラム	食事
8月25日 (土)	関西空港発14:10ー香港経由 デリー着21:10 (デリー泊)	
8月26日 (日)	デリー市内観光(インド門、国立博物館等) 19:50 夜行列車(バイシャリエクスプレス) にてゴラクプール (車中泊)	朝昼夜
8月27日 (月)	国境を越えネパール領ルンビニへ カピラ城(ネパール側)のある テラウラコットへ (ルンビニ泊)	朝昼夜
8月28日 (火)	クシナガラ(インド領)参拝 チュンダの仏舍利塔参拝 アーナンダ病院訪問 (クシナガラ泊)	朝昼夜
8月29日 (水)	アーナンダ病院にてボランティア活動 (クシナガラ泊)	朝昼夜
8月30日 (木)	ヒンドゥー教の聖地バラナシへ 途中、サールナート参拝 (バラナシ泊)	朝昼夜
8月31日 (金)	ガンジス河のほとりを自由散策 国内線にてデリーへ バラナシ発15:50ーデリー着17:05 デリー発23:15 (機中泊)	朝昼夜
9月1日 (土)	関西空港着12:40	



クシナガラの涅槃堂

【主な訪問先】

- ★ルンビニ 世界遺産にもなっている釈尊生誕の地。釋迦族の城跡(カピラ城)の宮殿跡、帰城説法の地・クダン、ルンビニ(マヤ堂、産湯の池、アショーカ王柱)を参拝。
- ★クシナガラ 釈尊入滅の地。5世紀ごろ作られた約6mの涅槃像を安置した涅槃堂をはじめ、茶毘塚などがある。
- ★サールナート 初転法輪の地として多くの仏塔や僧院跡がある。貴重な出土品を多く擁する州立博物館も見学。
- ★バラナシ ヒンドゥー教の聖地。ガンジス川の沐浴で有名。
- ★アーナンダ病院 1998年に設立され、インドの貧しい人々に診療や保健衛生活動を行っている。

【ツアーについて】

- 定員：19人。最少催行人数6人
- 申込締切日：7月25日（定員になり次第締め切り）
- ツアーに先立ち、事前説明会および勉強会を実施します（7月下旬予定）
- ツアーに含まれるもの：航空運賃、関西国際空港施設使用料、インド空港税、航空保険料、燃油料、インド査証代、ネパール査証代、日程記載のホテル・食事、送迎、入場料
- ツアーに含まれないもの：お土産・電話代などの個人的費用、旅券取得の際の旅券印紙代、23kg以上の超過手荷物運搬料、日本国内費用、一人部屋追加料金（42,000円）、JIPPOへの会員登録費用※
- ※参加者はJIPPOへの会員登録をお願いします。
- 利用予定航空会社：インド航空
- 利用ホテル：デリー：アショクカントリーリゾート、ルンビニ：ニルバーナホテル、クシナガラ：パティックニワスロッジ、バラナシ：ラマダホテル
- 旅行企画・実施：株式会社トラベルサライ 大阪市中央区淡路町1-2-10RRビル3F TEL：06-6232-3012  
観光庁長官登録旅行業第1510号（社）日本旅行業協会正会員（ボンド保証会員）

JIPPO インフォメーション

あなたのお寺へ出前講座

お寺を会場に、身近な人たちと国際協力を考える会を開いてみませんか？

対象は小学生から大人まで。JIPPO専務理事の中村尚司(龍谷大学名誉教授・研究フェロー)はじめ、JIPPOスタッフがご希望のテーマに合わせて出前講座します。ぜひお気軽にご相談ください。

テーマの一例

- ・JIPPOはどんな活動をしているの？
- ・「豊かなアジア、貧しい日本」を考える
- ・光り輝く島、スリランカ
- ・フェアトレードってなんだろう
- ・国際協力から民際協力へ
- ・「国際協力って何？」を楽しみながら体感

2012年度通常総会のご案内

下記の通り、第4回通常総会を開催します。

正会員のみなさまのご参加をお願いします。

日時: 2012年6月22日(金) 午後1時半～

会場: 浄土真宗本願寺派伝道本部会議室7  
(旧宗務総合庁舎内)

総会議案:

第1号議案 2011年度事業報告について

第2号議案 2011年度収支決算について

第3号議案 定款の変更について

ご欠席の方は委任状(表決書)をご提出ください。

会費請求時期変更のお知らせ

会員のみなさまには既にお知らせしましたとおり、事務の効率化を図るため、これまで個別に行っていた年会費の請求を一括して行うこととしました。入会月に関わらず、年度初めに年会費納入のお願いをお送りします。どうぞご了承ください。

～事務局だよ～

福島物産販売支援でご縁ができた、川俣町にある手づくり館の「竹屋」さんを訪れました。まだまだ大変な様子ですが、JIPPOを通じて遠くの方々から励ましのお便りが届いたと喜んでいました。お店には大阪の小学生から届いた絵手紙が飾ってあります。こうした人と人とのつながりが、明日への生きる希望になるのだと、竹屋さんの笑顔を見てうれしくなりました。(た)

JIPPO事務所での商品購入に

電子マネーが使えるようになりました

今月から、JIPPOの事務所に電子マネー端末「KAZAPI」を設置しました。フェアトレード商品の購入や年会費の納入に、電子マネーをご利用いただけます。今のところWAON、Edy、iDの三種類に対応していますが、順次増えていく予定です。

なお、ご寄付およびバザーの際のご利用はできません。

JIPPO事務所営業時間:

月曜日～金曜日 午前9時～午後6時  
(土、日、祝日、年末年始は休み)



6月の野宿者支援

6月18日(月)午後3時半から、京都市内の山科川、東高瀬川、西高瀬川を巡回します。

JIPPO会報第8号 (2012年6月1日発行)

発行: 特定非営利活動法人 JIPPO

〒600-8501 京都府京都市下京区堀川通花屋町下ル  
本願寺門前町本願寺内

TEL: 075-371-5210

FAX: 075-371-5240

e-mail: office@jippo.or.jp

URL: http://jippo.or.jp